



育G新聞編集部 編集協力：
NPO法人 フザーリング・ジャパン
NPO法人 孫育て・ニッポン

育G インフォメーション

楽しい子育て・孫育て講座

【日 程】7/5(金)、8/2(金)、9/6(金)
10/4(金)

【時 間】午後1時30分～3時30分

【参加費】1000円（一家族）

【場 所】東京都台東区
社団法人日本助産師会 2階研修室

【対 象】祖父母、ママ・パパ

【主 催】社団法人日本助産師会 2階研修室
NPO法人 孫育て・ニッポン

NPO法人 孫育て・ニッポン
会員募集中！

家庭や地域で「孫育ての笑（わ）」を広げる仲間を募集しています。孫の有無、年齢、性別は問いません。9月から会報「おまご新聞」（年4回）を発行予定。

詳しくは→www.magosodate-nippon.org

育G発見

No.16 尾崎 明さん



千葉県・松戸市で地元の子どもたちに料理教室を開いているスーパーイクジイの尾崎明さんは、今が一番輝いているという。サラリーマンから料理おじさんへの変身ストーリーを伺った。

「サラリーマン時代は、会社と家の往復のみ。ここに35年暮らしているけど、地域の知り合いもほとんどいなかつた。でも、今は近所のガールフレンドが遊びに来ますよ」。ガールフレンドとは、近所の子どもや尾崎さんが行っている料理教室に参加した地域の子どもたち。

尾崎さんは朝の登校の見守りのおじさん、畑のおじさん、料理のおじさん、地域の防犯活動のリーダー、そして野菜ソムリエと5つの顔を持つ。「在職中から定年後のこと少しすつ準備はじめました。周りを見ると定年後も会社の付き合いを継続している人が多く、あーはなりたくないなあ～と思っていましたね」。

退職前に尾崎さんは退職後に自分がどのように生きたいかを決めたという。それは「男のプライドを守る」「お金を稼がない」「野菜作りをする」「過去、特に仕事の話はしない」「地域の役に立つ」。

地域デビューは、小学校の登校時の見守りから。「このくらいならオレもできるかなと思って。でも、はじめは『おはよう』って声がでなかったんですよ。照れもあるし、なかなか裸になれないんですね～、男って」（笑）。



交差点に立つようになって尾崎さんは嬉しい変化が生まれた。買い物などに出かけると、子どもたちのほうから声を掛けてくれたり、朝の通勤で交差点を通る大人たちも、少しずつ挨拶してくれる人が増えた。

「やりたいと思ったことは、まずはやってみる。嫌なことはやらない。じいいはそれでいいんじゃないかな。僕

は今が一番楽しいですよ」。

現在、体験農園では野菜作りを指導するだけでなく、ジャガイモの食べ比べをしたりして、子どもたちに作ること、食べることの楽しさを伝える講座を開いたり、地域の中学校の家庭科室をかりて、料理教室を行っている。



「先日、ふらっと遊びにきた子どもたちに、『将来の夢はなんだ?なりたいものを早く見つけて、なりたいもののこと一生懸命やれ。なりたいものが変わったら、またそれに向かって頑張ればいいんだ』って話をしました。最近の子どもたちは親に勉強しろ、ああしろ、こうしろって言われていますからね。ひとりくらいこんなじいがいてもいいんじゃないかなって」。

尾崎さんの夢は、おしゃべりができる、おいしいご飯が食べられる地域の場所づくりと、イクジイ仲間を増やすこと。スーパーイクジイの夢はまだまだ続く……。

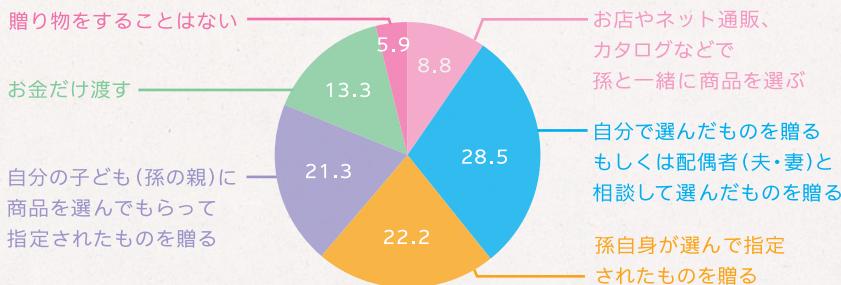
育G潮流

ご指定のプレゼントからの脱却に イマドキじいじ、ばあばは通販を利用

孫へのプレゼント購入に関する調査データが発表になった。調査対象は、東京圏居住の60~69才で孫のいる人。お店やネット通販などで孫と一緒に商品を選ぶ祖父母は8.8%。一番多かったのは、自分もしくは配偶者(夫・妻)に相談して贈る28.5%であった。

しかし、データをひもといいてみると、「孫自身が選んで指定されたものを贈る」「娘や息子に指定されたものを贈る」と“指定されたものを贈る”祖父母が43.5%と「自分で選ぶ」「配偶者と相談して選んだものを贈る」を上回った。

Q. あなたがお孫さんに何か贈り物をしよう、買ってあげようと思った時、どのように商品を選ぶことが多いですか？



出典：ジャストリサーチサービス株式会社

育G Z Y T W 育G stylist G・ハヤシがアドバイス 「孫の野菜嫌いを治すウラ技!?」

「孫が野菜を食べなくて…」とお悩みのGにぜひトライしていただきたいのが、孫といっしょにつくるプランター菜園！まずは成長が早いリーフレタスやつまみ菜、苗で植えてどんどん収穫できるミニトマトなどではじめてみましょう。コツは、深めのプランターを使うこと。土の量で野菜の育ち具合がぐんと変わってきます。もちろん肥料も忘れずに。

Gといっしょに水をやり、育っていく姿を見ながら野菜に親しむことができれば、孫たちも「野菜を食べる楽しみ」に気づいてくれるはず！

